

明石川を守る

～清き流れの明石川を育むために～

小田隆司、石原煌大、西岡龍之介、徳田桜花、澤尚龍(玉一アクアリウム)

私たちは、13年前から明石川で調査をして、在来種はリリースし外来種は駆除をして美味しくいただけてきました。食べることで外来種の命が自分の命の1部となり、命の大切さとつながりを実感しています。

以前の明石川は、ブルーギルがとて多く調査でもブルーギルが1番多くとれていたそうです。そして駆除の結果、在来種が増え始めた2014年からは、調査の度にとれた匹数を記録に残すようになりました。

順調に在来種が増え続け絶滅危惧種も少しずつ増えてきた中で、外来種は激減したものの、あと少しで根絶といったところで、食物連鎖の関係で、ブルーギルが減ったら今まで卵を食べられていたオオクチバスが増え、オオクチバスとブルーギルを駆除すれば今度は食べられていたアメリカザリガニが増え始めるなど、外来種の数がなかなか0(ゼロ)にはなりません。

1度入ってきた外来種の駆除には長い時間が必要だということを痛感しました。これから時間をかけて、神戸市環境都市課の方々とも協力して、みんなで助け合いながら根絶に向けて、がんばっていきたいです。

夏から秋に、私たちが明石川に入って調査を始めると、どこからともなくオイカワやヌマムツの幼魚たちの群れが集まってきて、足元にまとわりつく体験は、明石川から私たちへの「ごほうび」かなと思います。

明石川の魅力や美しさをみんなに知ってもらうために、生き物観察やアユの放流などのイベント活動も続けています。なぜなら生き物の大切さと愛らしさをみんなに感じてもらいたいからです。

これからも調査と観察を続け、未来に流れる明石川を守っていきたいです。

